

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業（受託研究）〕  
寺島ナスにおける接ぎ木の有効性および艶無果の発生要因

沼尻勝人・海保富士男・木下沙也佳・遠藤拓弥  
(園芸技術科)

---

【要 約】「寺島ナス」は、台木「トナシム」の接ぎ木で増収する。一般的な長卵形ナスより果数は多いが、収穫果実サイズが 40 g と小さく、収量は 7 割程度である。下物で多くを占める艶無果は、接ぎ木で変わらず、高温時期に発生し、低水分条件ではさらに増加する。

---

【目 的】

接ぎ木によって草勢が強まり、自根よりも増収することを昨年明らかにしたが、「寺島ナス」に発生が多い艶無果への影響は判然としなかった。そこで本試験では、引き続き自根と接ぎ木の比較試験を行い、収量性や艶無果の発生に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

2019 年 4 月 25 日に、「寺島ナス」（「蔓細千成」）の自根苗および「寺島ナス，改良千黒」の接ぎ木苗（「トナシム」台）を畝幅 70cm，株間 60cm，黒マルチを施したベッドに栽植密度 694 株/10 a で定植した。主枝は慣行的な V 字仕立てとし、仕立て本数は「改良千黒」で 4 本としたが、「寺島ナス」は 6 本とした。試験区は、1 区 4 株の 3 反復とした。いずれの区も施肥や灌水などの管理は同様とした。6 月から 9 月末までは、収穫時に 2 芽を残して切戻ししたが、それ以外の期間は放任とした。収穫調査は 11 月上旬まで実施した。

【成果の概要】

1. 「寺島ナス」は、昨年と同様に、接ぎ木によって果数および収量が増加した（表 1）。一般的な長卵形ナスである「改良千黒」と比較すると、「寺島ナス」の果数は倍近く多かったが、収穫果実サイズが小さいことから、収量は接ぎ木しても約 6 t/10a であった。
2. 収穫果数の旬別推移には、接ぎ木の影響はみられず、自根と同様の傾向を示した（図 1）。「改良千黒」と比べると、「寺島ナス」の推移傾向は似ていたが、最盛期には「改良千黒」の倍以上の果数が収穫でき、8 月上旬や 10 月上中旬に多い特徴がみられた。
3. 艶無果の発生時期についてみると、接ぎ木の有無で差異は認められなかったが、本年は 8 月上中旬に多く、昨年は 7 月上旬から 8 月下旬に多かった（図 2）。艶無果は、高温との発生が多いといわれているが、「寺島ナス」で発生した時期も比較的気温が高い時期であることから、高温が影響している可能性が示唆された。
4. 旬ごとの艶無果数と旬平均気温関係をみると、25℃以上で艶無果が増加する傾向がみられた。また、降水量が少ないと艶無果が増加しており、艶無果の発生は、高温が主要因であるが、低水分条件が加わると増大すると考えられた。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 接ぎ木は、都内で発生が多い半身いちょう病対策にも効果的である。
2. 艶無果は、果実サイズが大きいほど発生しやすいため、高温時には通常よりも若採りすることを推奨する。

表1 「寺島ナス」の接ぎ木栽培が収量性に及ぼす影響

品種	接ぎ木 有無	収穫果数(個/株)				収量(t/10a)				可販果実重	可販率
		A品	B品	A・B計	下物	A品	B品	A・B計	下物	(g/個)	(%)
寺島ナス	無	154 b	60 ab	214 b	88 b	3.6 c	1.5 b	5.2 c	2.2 c	40 b	71 a
	有	166 a	92 a	258 a	95 a	4.0 b	2.2 b	6.2 b	2.6 b	42 b	73 a
改良千黒	有	93 c	38 b	132 c	60 c	6.4 a	3.4 a	9.8 a	3.9 a	106 a	69 a

注)2019年4月25日定植,株間60cm,畝間240cm(栽植密度694株/10a)、接ぎ木は「トナシム」とした。「寺島ナス」のA品およびB品,下物の分類は、「改良千黒」と同様に判断した。同列中の異なる文字間にはTukey法により5%水準で有意差がある。可販果はA品およびB品とした。

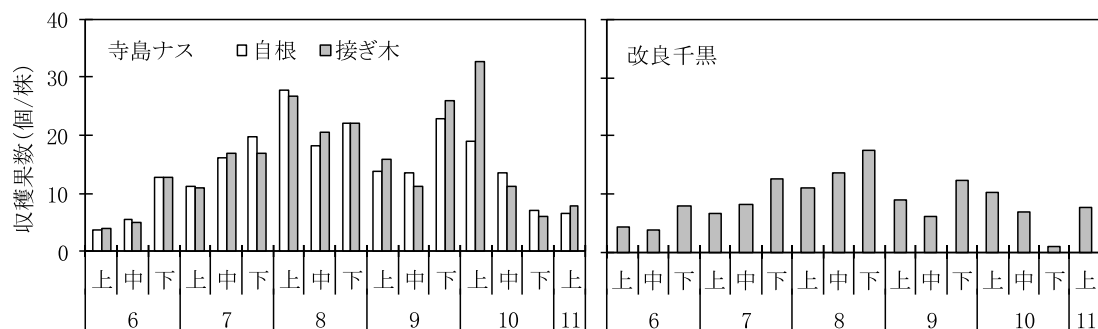


図1 「寺島ナス」および「改良千黒」の可販果数の旬別推移

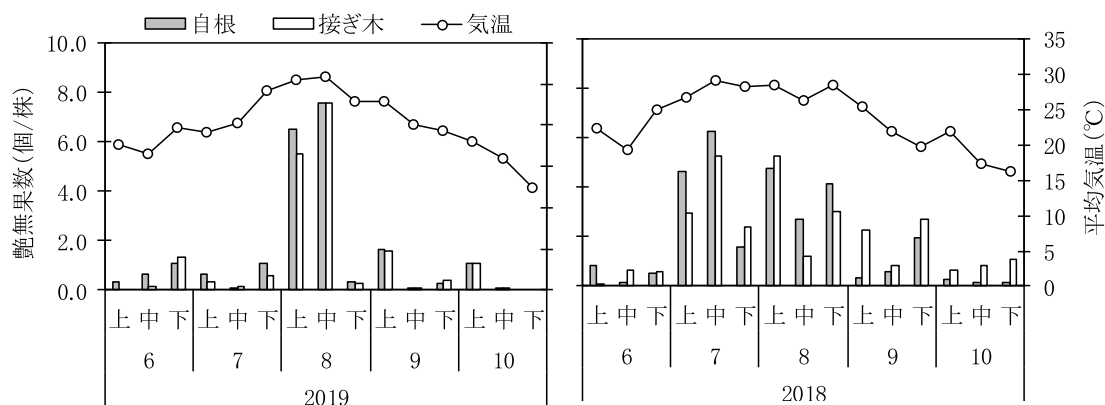


図2 「寺島ナス」の艶無果数の旬別推移

データは2019年および2018年を示す。平均日最低気温はアメダス値(府中市)を使用した。

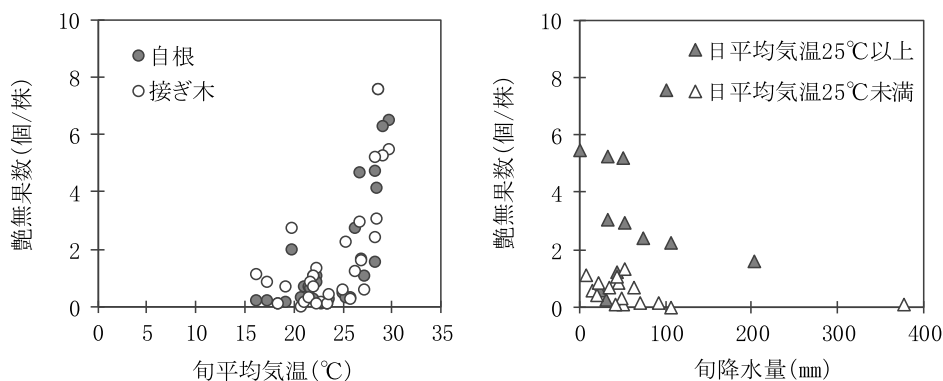


図3 「寺島ナス」の艶無果数(旬合計値)と旬平均気温および旬降水量の関係

データは2019年および2018年を示す。右図は接ぎ木区のデータのみ。気象データはアメダス値(府中市)を使用した。